

学術年会開催にあたって

堀井 郁夫 (学術年会長)

医療の場に対する貢献として、新しい医薬品の研究開発への期待は多大なものがあり、有効で副作用の少ない医薬品の提供は医薬品開発の原点であり使命でもあります。しかしながら、創薬早期からヒトでの薬効・副作用の予測を適確に捉え検証していくのには科学的にも倫理的にもまだまだ解決しなければならない事が多くあります。このような観点から動物実験結果からヒトへの外挿性を計る事は重要であり、その橋渡しとして「ヒト組織・細胞利用」を基盤とした HAB 研究機構の持っている役割は大きいものがあります。このような背景の中で創薬早期にヒト組織・細胞を用いてヒトへの外挿性が高い実験系を如何に構築するかが重要な課題となってきました。

今回の HAB 研究機構学術年会は第 17 回目を迎え、2010 年 5 月 21 日(金)、22 日(土)の両日、昭和大学上條講堂にて開催します。メインテーマとして「創薬とヒト組織利用 — 薬効と副作用予測への挑戦」を掲げ、一つのキャッチフレーズとして“細胞工学からのメッセージ”をあげております。近年の細胞工学的アプローチにおいては、その科学面・技術面に関して新規性・挑戦性に目覚ましい進展が見られ、ヒト組織・細胞利用での更なる展開に一光を投げかけるものと期待をしております。

一日目の特別講演では創薬におけるヒト組織利用の現状と展望について総括的講演を、シンポジウムでは薬効・副作用予測とヒト組織利用を、招待講演では諸外国におけるヒト組織利用の科学的挑戦と実情についての発表・討議がなされます。二日目はヒトモデル動物の構築と将来展望に関する講演を、話題提供的なワークショップ「細胞工学からのメッセージ」が開催されます。その他、一般演題としての発表・討議のセッションも設けています。

近年、再生医療の目まぐるしい進展、2010 年に至っての改正臓器移植に関する法律施行など、新しい世の動きに即した本会の今後の展開も注目されているところにあります。

皆さん、奮ってのご参加をお願い申し上げます。

プログラム概要

フラッシュ講演

「培養細胞による細胞工学的アプローチ」

細胞工学的アプローチに期待するもの

金森敏幸先生(産総研)

マイクロエルアレイを用いた創薬研究のためのマイクロ組織形成技術

中澤浩二先生(北九州市立大学)

灌流培養チャンバーアレイチップによる薬物毒性評価

杉浦慎治先生(産総研)

酸素透過膜を用いた新たな肝細胞基礎培養系

酒井康行先生(東京大学生産技研)

細胞シートを用いた血管形成評価

紀ノ岡正博先生(大阪大学)

創薬支援への応用を目指したオンチップ・セロミクス

安田賢司先生(東京医科歯科大学)

第 16 回 市民公開シンポジウム

「インフルエンザ」

演者交渉中

一般講演: ヒト組織を用いた研究

一般講演を募集します。

ヒト組織を用いた研究であれば内容は問いません。発表希望者は演題、氏名、所属および連絡先を明記の上、事務局までメールにてご連絡下さい。

(要旨締切り: 2010 年 3 月 19 日)

特別講演

創薬におけるヒト組織利用の現状と将来展望

杉山雄一先生(東京大学大学院)

人工染色体技術を用いたヒト化モデル動物の

構築と将来展望 押村光雄先生(鳥取大学)

招待講演

Human stem cell a new tool for prediction of safety and efficacy

Annamaria Rossi (Pfizer)

Current situation of human material procurement, particularly probable restriction to the outside the US

Jeffery Thomas (NDRI)

シンポジウム 「薬効予測とヒト組織利用」

ヒト肝細胞を用いた代謝予測とその検証

内山 稔先生(第一三共)

摘出消化管を用いた膜透過性および代謝研究から薬効予測まで

山下伸二先生(摂南大学)

Pharmacorotomics: 質量分析装置を用いたヒト組織機能性タンパク質の絶対定量値に基づく薬効副作用予測

寺崎哲也先生(東北大学)

がん組織を用いた制癌剤開発研究の現状と問題点

佐々木康綱先生(埼玉医科大学)

シンポジウム 「副作用予測とヒト組織利用」

肝毒性評価(発現メカニズム解明へのアプローチ)

横井 毅先生(金沢大学)

腎毒性評価(発現メカニズム解明へのアプローチ)

増田智先先生(京都大学)

心毒性評価(QT 延長の予測)

浅井康行先生(リプロセル)

In vitro 遺伝毒性試験の問題点と将来

本間正充先生(国立衛研)

最新のプログラムは、ホームページにて(<http://www.hab.or.jp>)随時、公開しております。

< 組織委員会 >

年会長：堀井 郁夫

(昭和大学薬学部、ファイザー株式会社)

組織委員：

五十嵐 隆 (日本ペーリンガ-インゲルハム株式会社)

池田 敏彦 (横浜薬科大学)

泉 高司 (第一三共株式会社)

大野 泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)

金森 敏幸 (独立行政法人産業技術総合研究所)

神村 秀隆 (アステラス製薬株式会社)

北田 光一 (千葉大学医学部附属病院)

杉山 雄一 (東京大学大学院薬学系研究科)

野村 俊治 (ファイザー株式会社)

堀江 透 (ディ・スリー研究所)

森脇 俊哉 (武田薬品工業株式会社)

山添 康 (東北大学大学院薬学研究科)

山田 久陽 (大正製薬株式会社)

吉田 武美 (昭和大学薬学部)

< 事前参加登録費 >

(要旨集を含む)

HAB 研究機構正会員：8,000 円(当日：10,000 円)

賛助会員：8,000 円(当日：10,000 円)

(一口につきでそれ以上は非会員扱い)

非 会 員：13,000 円(当日：15,000 円)

学 生：6,000 円(当日：8,000 円)

懇 親 会 参 加 費：7,000 円

事前参加申込期限：2010年4月19日

指定の郵便振込用紙を HAB 研究機構事務局までご請求下さい。

< 会場案内 >



東京都品川区旗の台 1-5-8 昭和大学 上條講堂
東急池上線・大井町線 旗の台駅東口下車 徒歩7分
都心からお越しの場合は

JR 五反田駅より東急池上線乗換

または JR 大井町駅より東急大井町線乗換

< お問い合わせ・お申込み先 >

特定非営利活動法人 HAB 研究機構

〒113-0032

東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル

TEL/FAX 03-3815-1909

E-mail secretariat@hab.or.jp

URL <http://www.hab.or.jp>

Non Profit Organization
Human & Animal Bridging Research
Organization

第 17 回 H A B 研究機構学術年会

創薬とヒト組織利用

- 薬効と副作用予測への挑戦 -

『細胞工学からのメッセージ』

First Circular



学術年会長：堀井 郁夫
(昭和大学薬学部、ファイザー(株))

日時：2010年5月21日(金)・22日(土)

9:00 ~ 18:00

会場：昭和大学 上條講堂